

2024（令和6）年度 母性看護学実習Ⅰ 授業資料(動画・面接共通)



視聴前に取り組むこと

☆課題1・2 事前学習

☆課題1・2 冊子に記載している内容を読み込む

★ 課題作成を自力で進められる人は、どんどん進めてください

事前準備

☆課題 1・2 で使用する2つの事例ともよく読み込んでいますか？

出来るだけシンプルにしていますが、出題者の意図を読み取ってください。また、対象の個別性をしっかり読み取ってください。

☆正常な経過についての事前学習は済んでいますか？

事例の対象が正常な経過の中に居る人なのか、逸脱(異常)の経過の中に居る人なのかを考えましょう。

正常経過の中の人、基本的な看護の原則が適用できる部分が多いと思います。逸脱の人はどのような病態なのか(もしくはどのような状態なのか)をまず理解する必要がありますね。事前学習がここでも重要です。

☆看護過程を展開するということについては、他の看護学と同じプロセスです。

母性看護学の特徴は、母子が多少の問題を抱えた状態にあつたとしても、「～促進準備状態」に対する看護は、優先順位の上位下位は別にして、必ずそれを含めた看護を提供する必要があると考えてよいと思います。

☆役割理論の言葉の定義は必ず理解して使用しましょう。

毎年レポートで散見されるのは、言葉の意味を理解せず使用してしまい、論理性が大きく欠如した文章です。まず、言葉の定義を理解すること、具体的なレベルで活用できることが重要です。レポートを仕上げた後は、必ず推敲をお願いします。

1. 母性看護の特徴・基本的理解について

1) ウェルネスの視点

健康やより健康な状態へ成長していく積極的な意味を含む

問題志向型・・・問題を発見して目標を設定し、問題を解決する

臨床での対象の状態	問題志向型の考え方	ウェルネスの考え方
子宮復古	非妊時の状態に戻ってはいないので、悪い状態、異常、まだ足りない状態と考える 遅れている ・ 不全の可能性	現状は正常であり、今後もよい方向に進むと考える 子宮復古を促す
育児技術を獲得している	特に初産婦などでは、初めての抱っこや授乳、育児には不慣れである 不安や戸惑いがある	不安や戸惑いはあるのが当たり前。 育児への理想や向上心、意欲との葛藤がある。 <u>対象の主体性の尊重、本人の持つ力を引き出す方向での関り</u> ～促進準備状態

ウェルネスの焦点は、今どんな状態にあるか、どういう方向に進もうとしているか

より良い改革の方向へ眼を向ける

問題点はないが、ケアは必要・・・そこを考え目標を設定していく

2) ウェルネスの特徴

- ①ありのままの状態を診断する
- ②その人の強みとなっているところを診断する
- ③ポジティブな視点で診断する

3) ウェルネスの意義

- ①妊娠分娩・産褥・新生児の生理的な変化によくマッチしている
- ②思考そのものをウェルネスに変換

例) 母乳分泌が進んでいない産褥1～2日・・・→

経過日数に応じた母乳分泌のプロセスが進んでいる

③全人的視点に立ったケア

人間は（問題のある部分+良好な部分）の構成

⇒ 良い点や強みに着目 ⇒ 生命力や自然治癒力を引き出す

4) ウェルネスの限界

- ①なんでもポジティブに捉える ⇒ 問題や異常の見落としがあるかもしれない
- ②良い方向に持っていかうとする・・・看護師の考え
- ③あるべきという枠に入れたがる
- ④問題=ダメと考える
- ⑤看護師の価値観や考え方に合わない=問題と捉えがち

※ ヘルスプロモーションについて

WHOが1986年のオタワ憲章のなかで定義

「人々が自らの健康とその決定要因をコントロールし、改善することができるようにするプロセス」

- ヘルスプロモーションでは健康を「人々が幸せな人生を送るための大切な資源」
- 病気や障害を抱えている人も、健康な人も、その人なりの幸せな人生を送るためには健康状態を維持・改善することが大事
- 専門家はこのような人々の健康への取り組みを支援し、環境を整える役割を担っている。長い人生の中であらゆる生活の場で個人、人々、地域が健康づくりに取り組むすべてのプロセスをヘルスプロモーションと位置づけ

課題1について考えてみよう！

★周産期の看護

…親になる過程を支援するまずは、正常な経過を理解する…ほとんどの人が正常経過をたどる！

1) 妊婦と胎児の身体的・生理的変化について

- ①項目別に変化をまとめる(テキストの順でよい)
- ②全体を表にする(母子を一覧に)
- ③起こりやすいマイナートラブルや合併症も入れておくとうよい
- ④妊婦健康診査

37巻『母性看護の実践』テキストのp18~21を参照する

2) 妊婦の心理・社会的変化について

大まかに妊娠初期・中期・後期で分けて考えるのでよい

3) 特定妊婦の理解

36巻『概論・リプロダクティブヘルスと看護』p80~81

37巻『母性看護の実践』p352~356



根拠法令・定義は必ず
覚えよう！

★母性意識はいつから発達する？

★マターナルアイデンティティはどのように発達する？

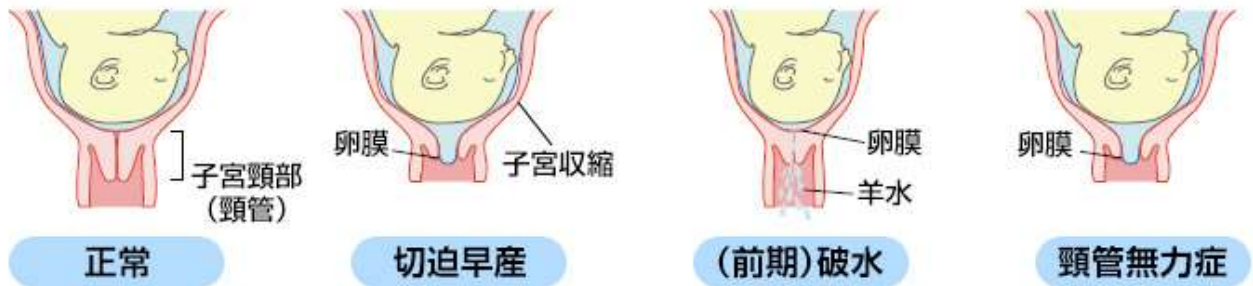
4)切迫早産と看護

妊娠 22 週 0 日～妊娠 36 週 6 日までの分娩 = 早産(早期産)

A 氏は妊娠 31 週です(A:好発時期ですね)

重要!

(1)病態



①早産の定義:

(2)早期診断と予知

★子宮頸管長の評価

妊娠 14～30 週:平均 35～40mm(正常の場合)

妊娠 28 週未満で 25mm 未満は頸管長短縮

★癌胎児性フィブロネクチン

絨毛膜や羊水中に存在するもの

膣分泌中に検出される

★細菌性膣症

発生機序・・・頸管炎・絨毛膜羊膜炎

乳酸桿菌が減少 ガードネラ、嫌気性菌、マイコプラズマが増殖



(3)症状

子宮収縮・下腹部痛・性器出血・子宮口の開大・ 展退等

(4)原因

前期破水・子宮内感染・多胎妊娠・羊水過多・絨毛膜下血腫・子宮頸管短縮

早産既往・円錐術後

感染・・・絨毛膜羊膜炎

(5)検査

子宮内感染(白血球数↑CRP↑母体体温↑)

内診所見:子宮口開大、子宮頸管短縮

経膈超音波:

癌胎児性フィブロネクチンの検出

破水・・・羊水テスト

(4)治療

①安静

②子宮収縮抑制薬

塩酸リドリン($\beta 2$ 刺激剤)

硫酸マグネシウム

③抗菌剤

④シロツカー・マクドナルド手術

⑤1週間以内に分娩が予想されるとき

・・・ステロイドの母体投与(新生児呼吸窮迫症候群の予防)



(5)看護:

①観察 腹部の張り 分娩監視装置

②子宮収縮抑制剤の副作用の有無と程度

手指の振戦・頻脈・肺水腫・血糖上昇・肝機能障害・横紋筋融解

③日常生活援助

清潔

④便秘予防

⑤下肢の運動(廃用性症候群の予防)

⑥NICUとの連携

解答のための大ヒント!

動画配信授業を丁寧に視聴してください。

課題 2 について考えてみよう!

役割理論を学ぼう!



1) 重要用語の定義

地位: 集団の中の位置づけ。相手との関係性から見た位置づけ

役割: 地位に伴う行動様式

役割期待: ある役割を持つ個人に対しての行動規範となるもの

役割取得: 個人がある地位に課せられる役割を身に付けること

役割遂行: 個人が実際の状況の中で、自分の資質に応じて役割期待に対応した結果としての行為

役割克服: 役割期待に沿った行動がとれていること

非効果的役割移行: 知識や教育、役割モデルが欠如しているために、役割が十分にとれない状態

役割葛藤: 個人の役割行動が彼自身の価値信条体系と相いれない場合、あるいは個人が複数の互いに矛盾する役割期待に同時に遭遇する場合、彼はいずれの行動を実現するかに関してジレンマに陥る。この心理的葛藤のこと

役割内葛藤

役割間葛藤

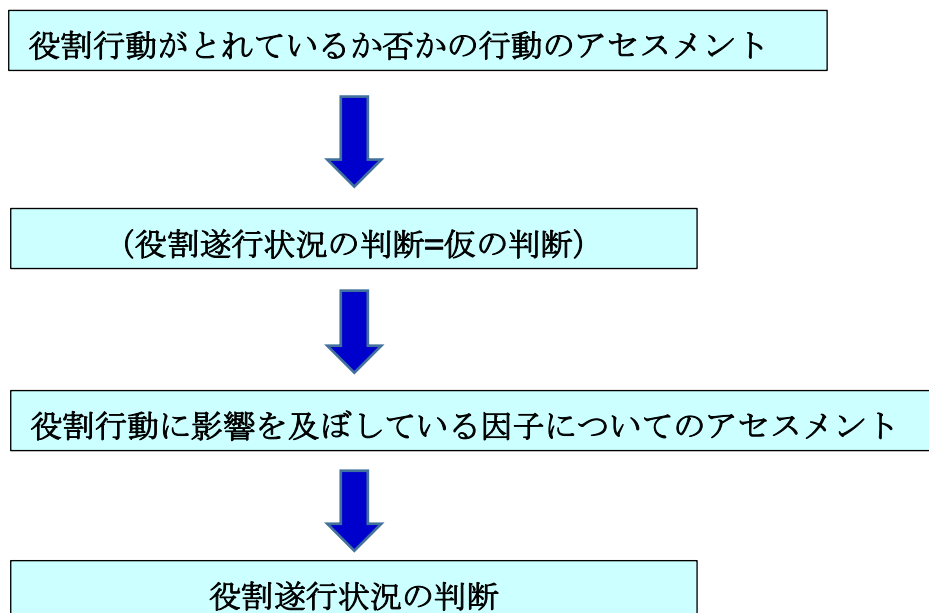
役割距離: 個人とその個人が担っていると想定される役割との間に「効果的に」表現される鋭い乖離のあること

役割失敗: 役割を遂行しようという意思がないことによって役割がとれていない状態

道具的行動: 役割を遂行することにかかわる身体活動

表出的行動: 役割を遂行することに対して抱く感情や態度

2) アセスメントの枠組み



3) 役割遂行状況の判断

役割克服

役割期待に沿った表出的行動と道具的行動がみられる状態

非効果的役割移行

道具的行動は役割期待とかけ離れているが、役割期待に沿った表出的行動が見られる状態

(一般的な影響因子：知識がない、役割モデルが居ない)

役割距離

表出的行動と道具的行動が種類と数において異なっている状態

(一般的な影響因子：自己概念と合わない=その役割を受け入れがたい)

役割葛藤

役割内葛藤：表出的行動と道具的行動が見られない状態

(一般的な影響因子：ある役割に対して自分が認識している役割期待と他者が認識している役割期待とが葛藤している)

役割間葛藤：役割期待に沿った表出的行動と道具的行動が見られない状態

(一般的な影響因子：個人のある役割に対する役割期待ともう一つの役割に対する役割期待の間で役割と役割の葛藤が生じている)

役割失敗

役割期待に沿った表出的行動と道具的行動が見られない状態

(一般的な影響因子：役割を遂行しようという意思がない)

4) 役割行動に影響を及ぼす一般的な因子

4つの要件

- ①消費者：役割を遂行した時、誰に良いことがあるか
- ②報酬：役割を遂行することで、どんな良いことがあるか
- ③便宜さへの接近：役割を遂行する上で必要なものは何か
- ④協力・協調：役割を果たすうえで協力してくれる人は誰か

社会規範

その社会における役割に対する標準的な硬度は何か

身体的成長、年齢

役割遂行にとって身体的成長の程度はどうか、年齢的にはどうか

自己概念

役割を果たせると思っているかどうか

役割モデル

役割を遂行する上でのモデルの数や質はどうか

期待される行動の知識

役割に対して期待されている行動の知識はどうか

身体的、情緒的状态

役割を遂行する上での身体的状態、情緒的状态はどうか

他の役割の達成

ある役割の達成行動をほかの役割が阻害していないかどうか

課題 2 へのアプローチ



帝王切開術後 2 日の時点で考える

【設問 1】B 氏と児の身体的アセスメントは正常経過と比較して書くとよい。

・順序だてて簡潔に書くこと

バイタルサインから始まり、退行性変化、進行性変化の具体を述べる

・児に関しては、一般的な身体的リスクを述べるので良い

【設問 2】B 氏の心理・社会的アセスメント(役割理論を用いて)

・アセスメントの枠に沿って順序よく書き進める

・母親役割期待とはどのようなものを明らかにすることが重要

★母親役割期待とは

●役割行動がとれているかどうかの行動のアセスメント

道具的行動・・・事例の中から複数文章を読み取ること

文章のすぐ後に(役割期待に沿っている)(役割期待に沿っていない)と判断を書き込んでください。

表出的行動・・・事例の中から複数文章を読み取ること

文章のすぐ後に(役割期待に沿っている)(役割期待に沿っていない)と判断を書き込んでください。

ヒント: 皆さんが考える役割期待は、母親役割をうまく取れている人をイメージしていると思います。それとの比較をしながら判断しましょう。

●役割遂行状況の判断＝仮の判断

必ず誰が読んでも理解できるように論理的に書いてください。

つまり、「表出的行動は～～、道具的行動は～～。よって〇〇と判断する。」というような書き方をしましょう。

●役割行動に影響を及ぼす一般的な因子

授業資料を参考に書いてください。

B 氏の場合は、**何が不足**していますか？看護がアプローチできるのは、どの部分か見いだせるとよいです。

【設問 3】看護診断（**役割/関係**もしくは**性/生殖**の領域から1つ）

役割理論の判断結果と NANDA 看護診断定義と分類 2021-2023 の診断名を**照合**します。

看護診断にある診断名をチョイスすること。

【設問 4】看護目標

退院までの目標でよい。

具体的に行動レベル(誰でも読んで評価できるレベル)で表現してください。

【設問 5】具体的看護援助

必ず 5W1H を用いて書いてください。

B 氏の個別性を考えて記入してください。



評価項目と配点基準

【母性：課題1】 実習Ⅰ P19

評価項目	評価の視点		配点
1 解剖生理	1) 関係臓器の解剖生理を説明している	・生殖器の解剖生理を理解している	20
2 病態生理	1) 状況に至る病態生理を説明している	・切迫早産の病態生理を理解できている	20
3 関連知識	1) 明確な臨床判断を行うための知識を説明している	・特定妊婦についての理解ができている	15
4 看護技術	1) 科学的根拠に基づき、安全安楽な看護技術を説明している 2) 看護技術については、具体的な内容を述べている	・切迫早産の診断、検査や治療に対して適切な看護が理解できている	15
5 看護	1) 状況を的確に判断している 2) 身体的側面から必要な看護を述べている 3) 心理・社会的側面から必要な看護を述べている	・妊娠の経過を適切にアセスメントできている ・必要な看護の方向性が的確に記述できている	30

【課題2：設問】 実習 I P21

評価項目		評価の視点	
1	身体的側面の アセスメント	病態生理の基本的な知識を 根拠とし、求められている内 容について身体的側面のアセ スメントができています	<ul style="list-style-type: none"> • 妊娠期から分娩、産褥（新生児）期 に至る経過を生理的経過と比較しなが らアセスメントができています。
2	心理的・社会 的側面のアセ スメント	1) 対象の発達課題をとらえて いる 2) 求められている内容につい て看護理論を参考に心理的・ 社会的側面のアセスメントが できています	<ul style="list-style-type: none"> • B氏の発達課題について記述してい る。 • 役割理論のアセスメントの枠組みに 沿ってアセスメントしている。（段階 に抜けがないこと）
3	看護問題	アセスメントに基づいた看護 問題を抽出ができています	<ul style="list-style-type: none"> • 評価項目1、2から看護問題が導か れている。 • 理論と看護診断の整合性がある。
4	看護目標	看護問題に沿った目標を設定 している 達成可能な目標を設定してい る	<ul style="list-style-type: none"> • ルンバを意識して目標を立案でき る。 • 短期目標をあげ、退院までに達成で きるものを設定している。
5	看護計画	対象の個別性を踏まえ実施可 能で具体的な計画を述べてい る 生活背景をとらえ自立支援を 踏まえた計画を述べています	<ul style="list-style-type: none"> • B氏がセルフセルフマネジメントで きるように配慮した具体的な計画を立 案している。（5W1H）